

# 参考資料

## 国土交通省 公共建築工事標準仕様書(平成31年版)引用

### ■ 横走り管の吊り及び振れ止め支持間隔

分類		呼び径														
		15	20	25	32	40	50	65	80	100	125	150	200	250	300	
吊り金物による吊り	銅管及びステンレス鋼管	2.0m以下									3.0m以下					
	ビニル管、耐火二層管及びポリエチレン管	1.0m以下									2.0m以下					
	銅管	1.0m以下									2.0m以下					
	鋳鉄管	標準図(施工16 鋳鉄管の吊り要領)による。														
	ポリブテン管	0.6m以下	0.7m以下			1.0m以下		1.3m以下		1.6m以下	—					
	鉛管	1.5m以下														
形鋼振れ止め支持	銅管、鋳鉄管及びステンレス鋼管	—					8.0m以下					12m以下				
	ビニル管、耐火二層管、ポリエチレン管及びポリブテン管	—	6.0m以下				8.0m以下				12m以下					
	銅管	—	6.0m以下				8.0m以下				12m以下					

●注:銅管及びステンレス鋼管の横走り管の吊り用ボルトの径は、配管呼び径100以下は呼称M10又は呼び径9、呼び径125以上200以下は呼称M12又は呼び径12、呼び径250以上は呼称M16又は呼び径16とする。ただし、吊り荷重により吊り用ボルトの径を選定してもよい。

### ■ 横走りダクトの吊り及び振れ止め支持間隔

ダクト種類	支持間隔(mm)	振れ止め間隔(mm)
アングルフランジ工法ダクト	3640以下	12000以下
コーナーボルト工法ダクト(共板工法)	2000以下	12000以下
スパイラルダクト	4000以下	12000以下

## 国土交通省 公共建築設備工事標準図(平成31年版)引用

### (a) 配管質量表

単位 kg/m

管径	40	50	65	80	100
質量	10	15	20	25	40
管径	125	150	200	250	300
質量	50	65	110	150	180

●注:配管質量は、満水状態で保温(外装はカラー垂鉛鉄板)を施した銅管1m当たりの数値である。

### (b) ダクト質量表

#### (1) アングル工法の場合

単位 kg/m

ダクトの周長(m)	1	1.5	2	2.5	3	3.5	4
保温無	5	10	20	25	30	35	45
保温有	30	45	65	85	90	115	140

#### (2) コーナーボルト工法の場合

単位 kg/m

ダクトの周長(m)	1	1.5	2	2.5	3	3.5	4
保温無	6	9	13	17	26	30	34
保温有	31	44	58	77	86	110	129

●注:保温有りのダクト質量は、ロックウール保温材を使用し、カラー垂鉛鉄板の外装を施した数値である。